患者・家族・支援者・市民・医療者対象

がんとともに 元気に生きる

日時 2014年11月15日(土) 13:30～16:00（13:00開場）

会場 東北労災病院・1階ロビー
〒981-8563 仙台市青葉区台原4丁目 3-21

参加費無料・事前申込不要

第1部 13:30～14:30 稲垣達也&DELTAユニットコンサート

■ 稲垣達也プロフィール

東京生まれ。宮城県 富谷町 在住（2007仙台市より転居）。
木や自然をテーマにしたオリジナル曲を中心としたピアノコンサートや、南米の笛ケーナ・コントラバスとのトリオ『DELTA デルタ』、馬頭琴とのデュオ『SUHO スーホ』など多彩なユニットでジャンルフリーな演奏活動をしている。
繊細かつ情熱的なタッチと'映像'や'香り'を感じさせる曲想 ---ジャンルを超えた音楽が多くの人の心の扉を開いている。

DELTA
ケーナ・ピアノ・コントラバスのトリオ

主催：四つ葉の会（東北労災病院がん患者会）／東北労災病院

第2部 14:45～16:00 講演 がんと共に生きている患者さんから学ぼうと心がけたこと

～がん医療の現場から！～

元・埼玉県立がんセンター総長；元・WHO専門家諮問部会委員（がん疼痛治療担当） **武田 文和** 先生

武田 文和 先生プロフィール

1981 年～ 1984 年：WHO（世界保健機構）・がん疼痛治療法作成委員
1985 年～ 2000 年：WHO・専門家諮問部会委員（がん疼痛治療担当）
1993 年～ 1998 年：埼玉県立がんセンター総長
1998 年～ 2014 年：埼玉医科大学客員教授

共催：東北労災病院／塩野義製薬

連絡先 東北労災病院・医事課　病院代表番号：022-275-1111

がんと共に生きている患者さんから学ぼうと心がけたこと

～がん医療の現場から！～

元・埼玉県立がんセンター総長；元・WHO専門家諮問部会委員（がん疼痛治療担当） **武田 文和** 先生

患者さんの初めての受診の際、私は、先ず自己紹介をし、次いで、「あなたの年齢からすると、「がん」ではないかと思っているのではないかと心配しているようですが?」と聞くようにしてきました。すると、多くの患者さんが、ホッとした表情になり、「実はそうです。」と答え、診察室がなごんだ雰囲気となります。

「それでは、診察し、いくつか検査を行いますが、がんがあれば見つかる検査です。検査ごとに結果を伝えますが、あなたに伝えたので良いですか?」と問うと、患者さんが、「そうしてください。」と答えることが多いのです。少数は、「いいえ、妻が聞きに来ます」と答えます。診断名を知らせるなとのサインですが、余り遭遇しません。検査が進み、診断名を伝える前に、「次回にお会いするとき診断名など詳細をお話しますが、一緒に聞いて欲しい方と来院してください。」と伝え、当日は看護師同席のもとに診断結果を話します。看護師は患者さんの反応を観察し、質問にも答え、ときには看護師が「患者さんは理解不十分。もう一度、説明するとよい」と医師に助言することもあります。この方針で、その後の医療も実践していきます。

本人に何も知らせずに、家族に「御本人に、がんと告げてよいですか?」と聞くのは、個人情報を本人の許諾を得ないで他の人に告げることになります。どの国の家族も、どう対応すべきか分からないために「いいえ、告げないでください」と言うそうで、こんな家族への質問は、もはや時代遅れです。また、「がんの告知」と言うが、心筋梗塞の告知や脳卒中の告知とは言わず、「がんの告知」という言葉だけが、使われているとは、時代遅れなのです。Informed consentという言葉がありますが、「よく知らされて理解した上で同意（ときには拒否）すること」で、医師はよく説明し、本人がよく理解した状態にすべきです。「ムンテラ」という言葉は「口先でごまかす」という時代遅れの隠語ですから、使かうべきではないのです。

がん治療を進めていくにあたっても、同じ姿勢で患者さんと意見交換をしていくべきです。時間がかかると言う医師がいますが、旧来のやり方の方が時間はかかるのです。がん病変の治療には種々のものがあり、選択も説明も時間がかかりますが、がん患者に起こる痛みの治療と心の痛みへの対応法は、どのがんの場合も同じ方針で良いのに、日本では治療の成果があまり向上していないのです。痛みの治療を受けているのに、痛みがすっかり消えた患者さんの割合が少ないし、もっとも必要となるモルヒネやオキシコドンの年間消費量が先進国中で最少なのです。世界共通の有効な治療法の学びが甘い医師が未だ日本に多いようです。痛みが消失するための治療方針を紹介し、痛みの治療には患者さんにも役割があること、がんであると診断された時の患者さんの心の動きと、その対応法の概略も述べます。